

# 議事録

## 1 概要

議題・会議名	令和7年度 第4回 学校運営協議会
開催日時	令和8年2月13日(金) 午前9時15分から10時45分まで
場所	静岡県立清水特別支援学校 会議室
出席者	外部委員6名 本校教職員10名 計16名
目的	・本年度後半の地域共同学習の成果報告と、学校評価を踏まえた「令和8年度学校経営計画案」へのアイデアを共有する。
テーマ	令和8年度学校経営計画について ～誰もが幸せを感じる学校へのアイデア～

## 2 議事

<h3>I 令和7年度第4回学校運営協議会</h3> <h4>1 開会 9時15分</h4> <p>・外部委員6名 本校教職員10名 計15名で開会 (1) 校長挨拶</p> <h4>2 協議(9時20分～10時45分)(進行:学校運営協議会会長)</h4> <p>(1) 「共に育つ地域共同学習報告」</p> <p><b>副校長</b> 総合防災訓練と清水地区探究コンソーシアムについて報告した。総合防災訓練では、学校運営協議会の提言を受け、今年度は飯田地区社会福祉協議会や自治会長の皆様と一緒に、ダンボールベッドやパーティションの設営・運営訓練を行った。そして日赤静岡県支部の方々との炊き出し訓練、近隣の介護施設の皆様の見学もあった。地域の方からは「生徒が設計図を見て組み立てる姿が素晴らしい」との感想をいただいた。次年度は幼稚園や、飯田地区の小中学校との連携も検討していく。</p> <p>清水地区探究コンソーシアムでは、清水地区の県立・市立5校が連携し、学習成果の発表や交流を行っている。清水銀行、イオン清水店、清水区役所などで「5校コラボ作品展」を開催した。中学部の法被や清水東高美術部と共同制作した絵画、高等部のSDGsポスターなどを展示し、多くの方に活動を知っていただく機会となった。</p> <p><b>地域連携課長</b> かがやき参観会について報告した。12月に5年ぶりの3学部同時開催を行った。地域やボランティアの方々約290件に案内を出し、当日は地域の方も参加された。小学部は学年ごとの発表、中学部は作業製品発表、高等部は合唱や和太鼓の音楽発表を行った。他学部の保護者からも「将来の姿を思い描けた」といった声が寄せられた。</p> <p><b>小学部主事</b> 小学部では、静岡FIDサッカー連盟との共同学習が3年目を迎えた。IAIパラスポーツパークの芝生のピッチという校内では体験できない環境で運動を楽しむことができた。</p> <p>5年生は「〇〇をニコニコにしよう」を合言葉に、八坂自治会館の清掃活動など地域への感謝を伝える活動を行った。隣接するセントケアの7周年を手作りの花を持ってお祝いに訪問した際は、利用者の方が涙して喜んでくださった。</p> <p>次年度は秋葉山公園の資源に今一度注目し、活用した学習を深めたい。</p> <p><b>中学部主事</b> 「静岡県SDGsスクールアワード2025」に、生徒の学習をまとめた動画を応募した。清水の自慢をテーマに、1年生は食べ物、2年生はかっぱれ、お日待ち太鼓や港、3年生は清水や静岡、名古屋の歴史の学習を通して、清水のためにできることをみんなで取</p>
---

り組んでいく。海が綺麗で食べ物も美味しい清水の町が大好きということを動画にまとめ、JAグループ静岡JA静岡中央会会長賞を受賞した。

PTA 奉仕作業では日軽金オーリスと連携し、本校卒業生と共に作業を行い、保護者との交流も生まれた。

次年度も「清水の自慢」を柱にし、地域の人や物とつながるような学習を計画していく。また、こどもたちが学んだことを表現・発表するような機会を増やしていく。

#### 高等部主事

12月に「しみずワクワクまつり」や「秋葉山大祭」での製品販売に参加した。地域の方々や福祉事業所の方など、幅広い層に学校を知っていただく機会となった。

作業学習では本年度、企業からの廃材を活用した製品作りを行っている。この取り組みを各作業班の代表生徒がまとめ「静岡県SDGsスクールアワード2025」に応募したところ、県教育長賞と明治安田企業賞を受賞した。またSHIZUOKA TANKYU COLLECTIONに参加し、「人々の笑顔と幸せのため未来につなげた私たちのSDGs」というテーマで発表をした。スペシャルサポーターの方から、企業からの廃材に新たな価値をつけて販売するストーリー性を評価いただいた。

今後も地域や企業、大学との繋がりを大切にし、生徒の表現・発信力を高めていく。

#### 輝きブックPJ長

教育活動をまとめる広報冊子「輝きブック」を制作中。表紙には、B委員に撮影していただいた全校写真を使用する。現在、年度内の完成を目指して編集作業を行っている。

### (2) 令和7年度学校自己評価報告（教頭）

「笑顔」の働きがいを感じる職場づくり環境は3.11と高い評価になった。課題は「キャリア教育の理解と指導の充実」でB評価だった。小中高12年間を見据えたキャリア教育を教職員が共有できるよう、理解を深めていく。

### (3) 令和8年度学校経営計画（案）（校長）

清水特別支援学校は開校当時から地域と共に歩む学校として歩んできた。私の着任以来、1年目は「挑戦」、2年目は「共に輝く」、3年目の今年は「輝きを発信し続ける」をテーマにしてきた。来年度の教育目標は「共に歩む ともに輝く」、副題として「～誰もが幸せを感じる学校～」とし、こどもを主語にした授業や地域連携をさらにグレードアップさせていく。

### (4) 委員の皆様からの感想、御意見

#### A委員

会社で活用している生成AIを使って保護者や児童のアンケート結果を分析した。主観を入れずに分析できる点は有用である。例えば、対話と深い学びのためのICT活用・指導の充実が学校評価はAだが、AI分析では連絡の見落としや運用のばらつきがあるということでB評価となっている。客観的な視点として参考にしてもらえるとよい。

#### B委員

保護者、生徒、来校者とたくさんのデータがあり、先生方が真摯に評価に向き合っていることを感じる。保護者の評価もおおむねよいが、学校がこれから取り組むべき内容もある。目の前のこども一人一人の個性や状況に応じた対応が大切であり、保護者の希望に満額の対応はできなくても、その子に応じた丁寧な対応を積み重ねていくことで救われる部分がある。

#### C委員

本校に地域の住民として関わっているが、先生方の生徒に対する対応が生徒一人一人に応じたものであると感じている。その分、先生方の負担も大きいと思う。これからもこどもたちのために引き続き良い教育をお願いしたい。

#### D委員

分校からの積み重ねがベースにあるということを先生方が頭に置いていて、異動により先生方が入れ替わっても継承されている。先生方が肌で感じる魅力が本校にはある。目標を大きく変えず、今の良さを積み重ねていくという本校の姿勢に賛成である。

一度「できた」という経験を、いかにして環境や人が変わっても継続して「できる」という能力に定着させるかという点が重要。特に環境の変化に影響を受けやすい生徒たちにとって、これは非常に難しいプロセスである。そのため、「できる」に変えていくための工夫や指導の力、あるいは地域の中でどのように支援していくかという考え方が、今後さらに重要になってくる。

#### E委員

学校が監修した「こんにやくカレー」をレトルト化して、地域の秋葉山のお祭りなどで販売するのはどうか。「美味しいもの」や「楽しさ」があれば人は集まる。違った視点での意見は必要。こどもを枠にはめるのではなく、個性を伸ばし、気楽に楽しめる環境があることが、学校の魅力に繋がる。

秋葉山大祭に来るキッチンカーの方から、本校で販売し盛り上げたいという話がある。学校の中だけではマンネリ化してしまうので、外部団体と連携しながらユーモアのある取り組みを全国に発信してほしい。

#### F委員

保護者の立場から2点お話しをする。1点目は清水らしさ、例えばお茶プロジェクトや松葉かきなどは清水を代表するブランドある。学校を卒業しても生まれ故郷のベースが清水にあると思えることはこども達にとって大事なことであり、学校教育の中でも清水らしさを取り入れてほしい。

またアンケートの中で、先生に相談に乗ってくれますかという問いに「バツ」をつけたこどもが少数だがいた。困っていることを自分から発信できないこどもに手を差し伸べる手法を考えていただけたらありがたい。

### 3 閉会